

東京都写真美術館の事業内容

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約2万5千点の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展・映像展のほか、維持会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との共催展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会やカフェ・トーク、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、子どもワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ガイドツアー、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）。

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画を先駆けて上映を行う。

10. 維持会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人維持会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開させる。

東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日 東京都写真美術館館長
福原 義春

「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、 センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」

<過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子どもや若者達に積極的に文化発信を行います。

<質の高い写真・映像文化と出会う美術館>

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

<写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

<写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

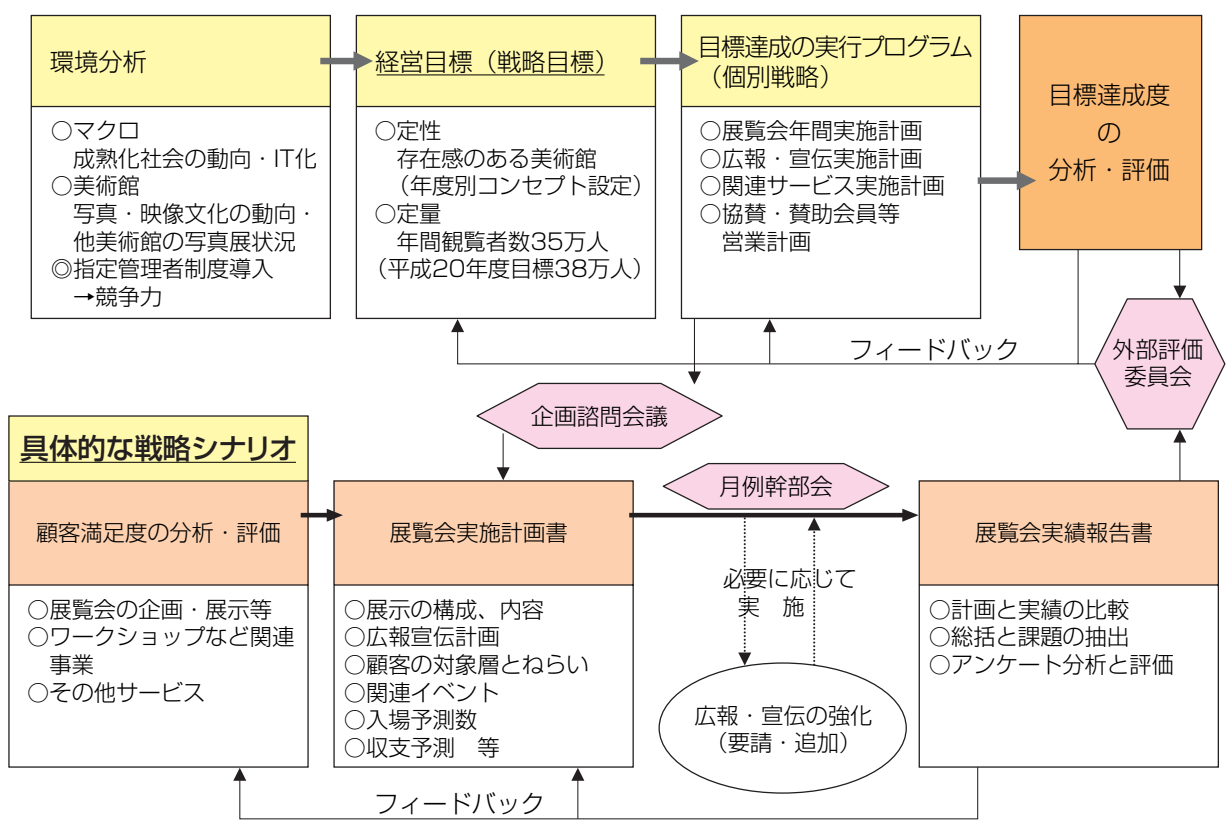
<開かれた美術館>

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

当ミッションは平成18年3月2日に策定した。

写真美術館における戦略的運営システム

写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



経営目標の設定

《 定性目標 》 **「存在感のある」美術館運営**
 とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。
 ○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。
 ○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。

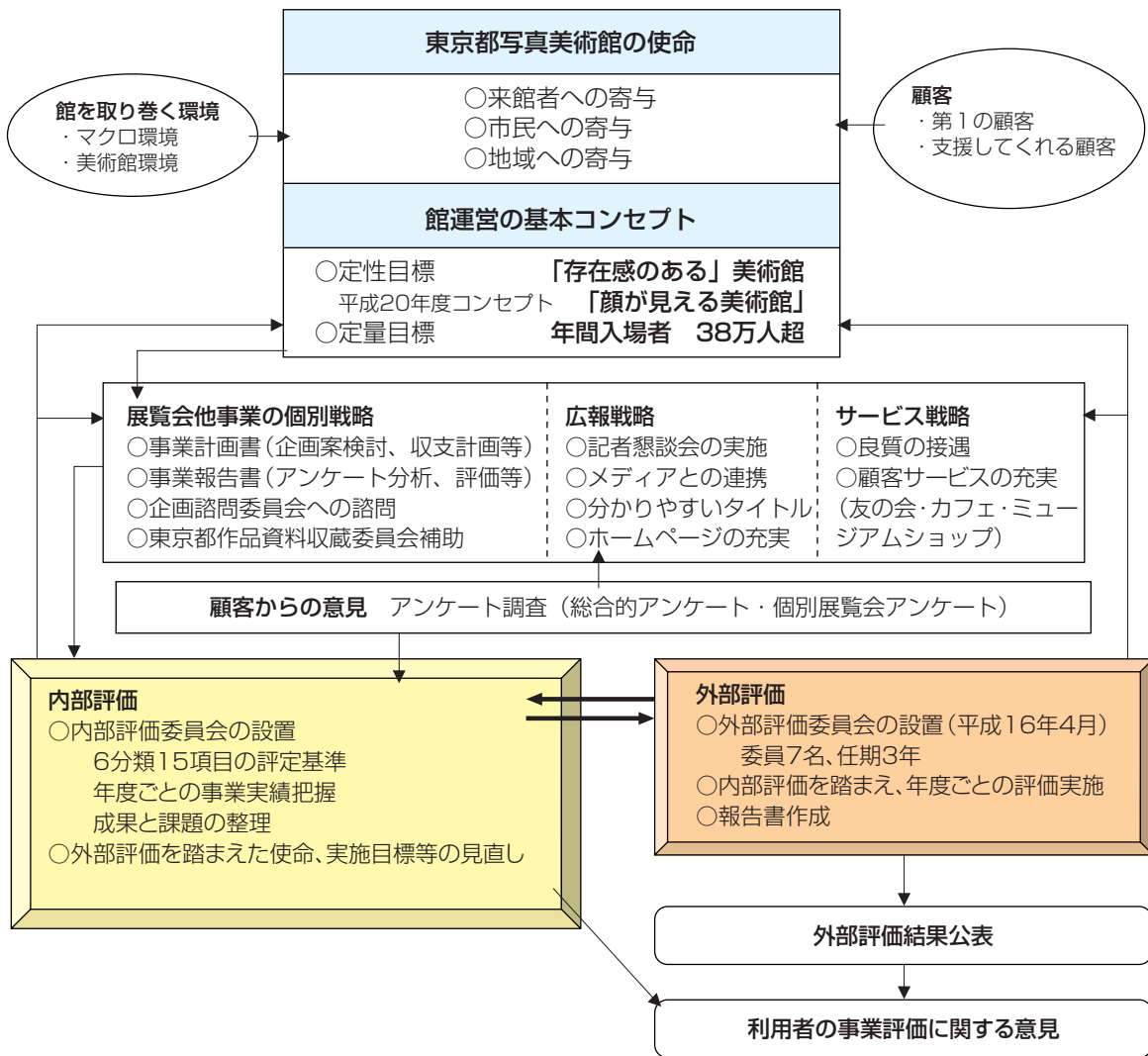
★年度別コンセプト

平成13年度 「静かな賑わい」	平成17年度 「信頼される美術館」
平成14年度 「写真(映像)とは何かを伝える」	平成18年度 「判りやすく説明する美術館」
平成15年度 「感動を与える」	平成19年度 「対話する美術館」
平成16年度 「明るく迎える美術館」	平成20年度 「顔が見える美術館」

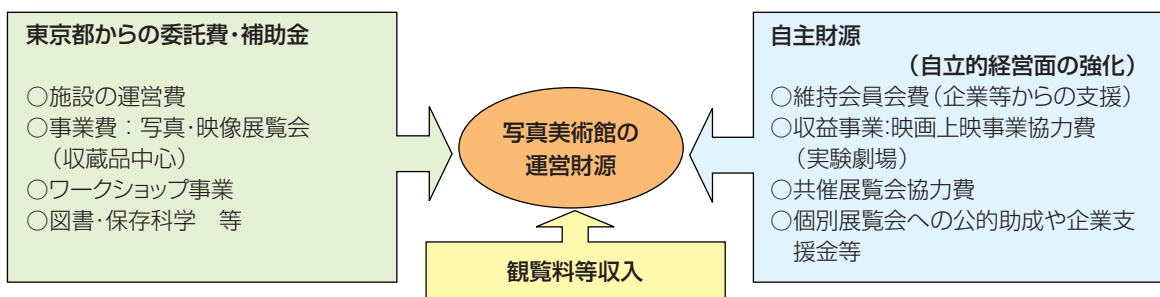
《 定量目標 》 年間入館者 38万人超

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
364,307人 目標30万人超→ 前年度比1.6倍	413,289人 目標30万人超→ 前年度比1.1倍	431,521人 目標35万人超→ 前年度比1.04倍	441,705人 目標35万人超→ 前年度比1.02倍	443,107人 目標38万人超→ 前年度比1.01倍	365,871人 目標38万人超→ 前年度比0.83倍	415,456人 目標38万人超→ 前年度比1.14倍

館運営と事業評価の概念



運営財源



平成20年度 会議実績

企画諮問会議

座長	高階 秀爾	美術史家／大原美術館館長
副座長	高橋 則英	日本大学芸術学部写真学科教授
	飯沢 耕太郎	写真評論家
	今橋 映子	東京大学大学院総合文化研究科准教授
	柏木 博	武蔵野美術大学教授
	重延 浩	テレビマンユニオン代表取締役会長・CEO
	菅原 教夫	読売新聞編集委員
	中村 政人	東京藝術大学准教授
	森 茂雄	日本放送協会(NHK)視聴者サービス局長
開催日	平成20年9月17日(水)	
議題	平成19年度の事業実績及び平成20年度の活動方針説明 平成23年度の展覧会企画提案	

外部評価委員会

座長	竹内 誠	江戸東京博物館館長 徳川林政史研究所所長
副座長	本多 健一	前東京工芸大学学長、日本学士院会員
	岩淵 潤子	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構(DMC)教授
	ピーター・バラカン	ブロードキャスター
	稲葉 郁子	朝日新聞社文化事業部
	長井 貞明	行政書士
	勅使河原 純	世田谷美術館副館長
第1回外部評価委員会		
開催日	平成20年6月25日(水)	
議題	外部評価方法の確認及び平成19年度事業実績報告	
第2回外部評価委員会		
開催日	平成20年9月19日(金)	
議題	平成19年度事業全部門について総括と最終評定を討議	

作品資料収蔵委員会

【収集部会】

委員長	柳本 尚規	東京造形大学造形学部教授
	岩本 憲児	早稲田大学文学部教授
	香川 檀	武蔵大学人文学部准教授
	榎木 野衣	多摩美術大学教授
	深川 雅文	川崎市市民ミュージアム学芸員
	港 千尋	多摩美術大学美術学部教授

【評価部会】

石井 孝之	タカ・イシイ・ギャラリー代表
井上 和明	ギャラリーバストレイズオーナー
太田 泰人	神奈川県立近代美術館普及課長
齊藤 洋一	松戸市戸定歴史館学芸員
佐谷 周吾	シュウゴアーツ代表
杉山 悦子	世田谷美術館企画担当課長
増田 玲	東京国立近代美術館主任研究員
光田 由里	渋谷区松濤美術館学芸員

開催日	平成20年11月18日(火)
議題	平成20年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

第1回記者懇談会

開催日	平成20年5月28日(水)
議題	平成19年度の事業実績及び平成20年度の活動方針説明

第2回記者懇談会

開催日	平成21年1月16日(金)
議題	平成19年度事業外部評価の報告 平成20年度及び平成21年度新企画紹介 平成20年度新規収蔵作品の紹介及び実見

東京都写真美術館映像施設あり方検討委員会

座長	岩淵 潤子	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究機構 (DMC) 教授
	中谷 芙二子	アーティスト、ビデオギャラリーSCAN、(株) プロセスアート代表
	河口 洋一郎	アーティスト、東京大学大学院情報学環教授
	下川 久美香	武蔵野美術大学イメージライブラリー
	松永 真太郎	財団法人横浜市芸術文化財団学芸員
	小野 由紀	東京都生活文化スポーツ局文化振興部副参事 (文化施設改革担当)

【審議経過】

- 第1回 平成20年4月18日(金) 午後3時~5時
議題：東京都写真美術館映像施設の課題について
- 第2回 平成20年5月20日(火) 午後2時~4時
議題：東京都写真美術館映像施設の方向について
- 第3回 平成20年6月26日(木) 午後3時~5時
議題：報告書提出

【東京都写真美術館映像施設の将来的方向 (概略)

平成20年6月26日提出

東京都写真美術館映像施設あり方検討委員会

I はじめにー本委員会の位置づけー (抜粋)

メディアが融合した作品の登場と展示構成の劇的な変化、映像機器の飛躍的な進歩など、時代の変遷とともに、東京都写真美術館の映像施設は、多くの課題に直面している。そのため、将来的な動向と刷新に当たって生じる問題を見定めたくうえで、映像施設の今後の方向について検討を行うこととした。当委員会は、東京都写真美術館福原義春館長に対して、映像施設の将来的な方向について助言を行うことを目的として、平成20年4月1日に設置された。多様な意味を持つ映像と美術館の運営にさまざまな立場から関わる専門家をメンバーとし、3回にわたる審議の上、報告書をまとめ、館長に対して提出をする。

II 基本的な考え (要旨)

- ホワイト・キューブ化：地域の特色や地の利を生かして、小回りのきくコンパクトなスペースとする。
- 多次元・多機能化：展示、ライブ、普及教育、作品制作に用いることができる多次元多機能な空間として、外部との連携を模索しつつ、世界へ向けた日本の多種多様な映像文化の拠点とする。

○ネットワーク化：ギャラリー同士等をネットワークで結び、展示等の間の連携を可能にする。

III 具体的な方策 (要旨)

- ホワイト・キューブ化に向けて：様々な展示や企画に耐えられるよう、現在の映像展示室から、固定されている機材等を撤去し、使い勝手の良いホワイト・キューブの空間に改装する。
- 多次元多機能化に向けて：ホワイト・キューブ化した空間を中心として、ジャンルを超えて融合化している展覧会企画、ライブ、教育普及、作品制作に用いることができる多次元・多機能の空間として用いることができるようにする。
- ネットワーク化に向けて：写真・映像を専門とする美術館に相応しい、ネットワークを最大限に生かした展示や美術館活動ができるように、美術館全体においてネットワーク環境を整備する。また、カフェ等で無線LANによるネットワークを構築し、情報や画像を視聴できるようにする。

IV 課題 (要旨)

- 既存作品資料の媒体変換：基本的にはオリジナルの状態では作品は保存し、LDやビデオ編集したもののうち、保存が必要なものの選定を検討する場を外部の有識者も含めて検討した後に美術館で行い、その中でも二次資料として活用するものについてはDVDやハードディスクなどに媒体変換する。
- 既存機器の保管について：現存する機材については、オリジナル作品の上映、展示、及び作家や他の美術館等からのリクエストに応じていく可能性があることなどを十分考慮し、他館との協力関係を構築しながら、必要最低限のものに限り保存管理する。不用となったものについては、他の大学等の研究機関、美術館・博物館等への譲渡を含めて検討する。
- 人材の確保と育成：多様な映像文化を複眼的に展開するために、専門的知識と経験をもった人材を確保し、育成する。

V むすび (抜粋)

東京都写真美術館は、アクセスが容易で、若い世代が行き交う恵比寿というすぐれた場所に立地しており、この地域の魅力を十二分に発揮するとともに、世界に向けて映像文化・芸術の魅力を伝えていく拠点としての役割も担っている。この報告書を活かして、過去からの蓄積、世界への発信、将来世代への継承を実現していくことを望む次第である。

平成20年度 トピックス

- 4月18日 第1回映像施設のあり方検討委員会
これからの映像施設のあり方と指針について有識者を
交え討議
- 5月20日 第2回映像施設のあり方検討委員会
これからの映像施設のあり方と指針について有識者を
交え討議
- 5月28日 第1回記者懇談会
平成19年度事業実績及び平成20年度活動方針の説明
- 6月25日 第1回外部評価委員会
外部評価方法の確認及び平成19年度事業実績につい
て報告
- 6月26日 第3回映像施設のあり方検討委員会
「東京都写真美術館映像施設の将来的方向」の報告
- 7月8日 写真映像文化振興支援協議会理事会及び懇親会
平成19年度の事業実績報告及びギャラリーツアー・
懇親会の実施
- 8月9日 1995（平成7年）1月21日の総合開館以来の総観覧
者数が400万人を突破
- 9月10日 東京都が実施した指定管理者
管理運営状況評価結果の公表
「管理運営が優良であり、特
筆すべき実績・成果が認めら
れた施設」として「優良」の
評価を得た
- 9月15日 敬老の日 展覧会無料サービス
65歳以上のお客様は展覧会
が全て無料となるサービスを実施
- 9月17日 第1回企画諮問会議
平成19年度事業実績及び平成20年度活動方針説明
平成23年度の展覧会企画提案
- 9月19日 第2回外部評価委員会
平成19年度事業全部門について総括と最終評定を討議
- 10月1日 都民の日 展覧会無料サービス
展覧会が全て無料となるサービスを実施
- 10月8日 維持会員対象のバックヤードツアー及び懇談会
保存科学研究室の紹介やギャラリートークを実施
- 10月30日 9月19日の外部評価委員会にて付議された平成19年
度事業外部評価結果を公表
- 11月18日 作品資料収蔵委員会
平成20年度新規収蔵作品の選定
- 1月2日 お正月特別開館
～1月4日 2日は展覧会無料、3,4日は割引サービスを実施。こ
の他イベント多数実施
- 1月14日 JAFRAアワード（総務大臣賞）の平成20年度受賞



- 1月16日 第2回記者懇談会
平成19年度事業外部評価の報告、平成20/21年度の新企画及び平成20年度新規収蔵作品の紹介
- 2月20日 映像のあり方を問う初めての試みとして、第1回「恵
比寿映像祭」開催
～3月1日

展覧会事業

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

【収蔵・映像展】

世界でも有数の約2万5千点の写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画した。珠玉の名作を順次紹介すると共に、展覧会をパッケージ化し、館発の他館への巡回展を行った。

① 写真コレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、「ヴィジョンズ オブ アメリカ」をテーマに約半年にわたって3部構成で連続展覧会を開催した。図録の代わりにして新潮社から一般書籍としてとんぼの本を出版した。なお、2007年のコレクション展「昭和 写真の1945-1989」展は「東京都写真美術館コレクションによる 写真・昭和の肖像 1945-1989—レンズが視た戦後の日本」と題して新潟県立万代島美術館に巡回し（会期：平成20年5月24日（土）～7月27日（日））、2009年には丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に巡回が決定している。

② 重点収集作家・新規重点収集作家の展覧会

「日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する」という写真作品収集の基本方針に基づき設定した重点収集作家である森山大道の個展を開催した。この展覧会は初めての試みとして、回顧展と新作展を2,3階展示室で同時開催し、図録の代わりに評論集『森山大道論』を淡交社と協力して一般書籍として出版した。本書では多彩な執筆による論評に加え、当館で一般から公募した入選評論一篇を掲載した（入賞作：甲斐義明『「アクセント」の衝撃、未だなお』）。

なお、平成18年度の重点収集作家個展である「球体写真二元論 細江英公の世界」展は尼崎市総合文化センター（美術ホール）（会期：平成20年11月1日（土）～11月30日（日））に巡回したほか、平成19年度の重点収集作家個展「土田ヒロミのニッポン」展は福井県立美術館（会期：平成20年5月2日（金）～5月25日（日））に巡回した。

③ 映像展の展開

写真美術館の映像コレクションの5つの指針であるテーマを毎年取り上げるシリーズとして「映像をめぐる冒険」展をあらたにスタートさせ、第1回として「イマジネーション／視覚と知覚を超える

旅」展を開催し、映像前史と最新技術を生かした現代の表現を、収蔵作品を中心に新たな視点から紹介した。

【自主企画展】

維持会費を中心とした自主財源を効果的に使い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を、国際動向もふまえて実施した。

① 中堅作家の個展

現在最も活躍の著しい旬の作家の個展を開催するシリーズ第2弾として新規重点収集作家の「ランドスケープ 柴田敏雄」展を開催した。図録は一般書籍として旅行読売出版社から出版した。この展覧会と写真集に対して柴田敏雄氏に2009年日本写真協会賞および第25回東川賞国内作家賞が贈られた。

平成20年度末には同シリーズ第3弾として新規重点収集作家の「やなぎみわ マイ・グランドマザーズ」展を国立国際美術館と共同企画で開催した。図録は一般書籍として淡交社から出版した。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

写真の広範な分野についての調査研究に基づく展覧会として「今森光彦写真展 昆虫4億年の旅」展を開催した。また本展はエプソンイメージングギャラリーエブサイトでの「神様の森・伊勢」展および大丸ミュージアム「里山・未来におくる美しい自然」展と同時開催した。一方図録は一般書籍として新潮社から出版した。この展覧会と写真集で、今森光彦氏は第28回土門拳賞を受賞。また平成19年度に個展を開催した水越武氏は第59回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

「甦る中山岩太：モダニズムの光と影」展は兵庫県立美術館、芦屋市立美術博物館および中山岩太の会と協力してガラス乾板からニュー・プリントを制作してヴィンテージ・プリントと共に展示した。

日本全国の美術館・博物館・資料館などの所蔵する幕末・明治期の写真・資料を調査し体系化する「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」のシリーズ第2弾として、「中部・近畿・中国地方編」を開催し、調査報告書を出版した。

③ 国際展

国内外の関係機関とのネットワークを生かした展覧会として、国立国際美術館および三重県立美術館と共同企画し、「液晶絵画 STILL/MOTION」展を開催した。また長年、写真美術館と共同で国際展を開催した朝日新聞社・梅津禎三氏に平成21年日本写真協会賞国際賞が贈られた。

④ 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるシリーズ第7回として身体をテーマに「日本の新進作家 オン・ユア・ボディ」展を開催した。この展覧会の出品作家のひとりである志賀理江子氏に対し、国際写真センター(International Center of Photography)より第25回 Infinity Awards, Young Photographer が贈られた。

【誘致展】

写真月間との共催や、写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

展覧会事業

収蔵・映像展

森山大道展

I.レトロスペクティヴ 1965-2005

MORIYAMA DAIDO I.RETROSPECTIVE 1965-2005

期 間 平成20年5月13日(火)～6月29日(日)
42日間

主 催 東京都 東京都写真美術館/産経新聞社

特別協賛 カルティエ

協 賛 エプソン

協 力 タカ・イシイギャラリー

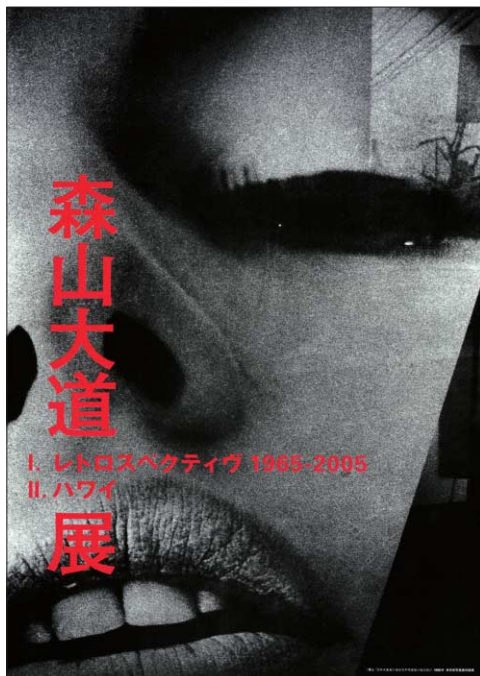
後 援 サンケイスポーツ/タ刊フジ/

フジサンケイビジネスアイ/iza/

SANKEI EXPRESS

出品作品数 206点

今日世界的に高い評価を受けている写真家森山大道の足跡を回顧した。写真家としてデビューした60年代にはじまり、写真への問いをラディカルに突き詰めた70年代、スランプからの再起を果たした80年代、そして躍進を続ける90年代から今日へと、今年70歳を迎える写真界の巨人の足跡を時代ごとに追い、「写真とは何か」、森山大道が問い続けた写真の軌跡を東京都写真美術館収蔵作品を中心に206点で再現した。会期中、関連事業として多木浩二氏らを迎え森山大道連続対論を実施した。



ヴィジョンズ オブ アメリカ

第1部 「星条旗」 1839-1917

Visions of America Part 1 "The Star-Spangled Banner" 1839-1917

期 間 平成20年7月5日(土)～8月24日(日)
45日間

主 催 東京都 東京都写真美術館

後 援 アメリカ大使館

協 賛 凸版印刷株式会社

協 力 フォト・ギャラリー・インターナショナル/

株式会社新潮社

出品作品数 156点

平成20年度収蔵展「ヴィジョンズ オブ アメリカ」は、19世紀のダゲレオタイプから現在に至るまで、「アメリカ」という場のなかから生み出された多種多様な表現を持つ作品を、時代によって3つのパートに分けて展示。

第1部「星条旗」では、アメリカに写真術(ダゲレオタイプ)が渡来した1839年から、アメリカ独自の写真芸術を確立したアルフレッド・スティーグリッツが主宰した写真雑誌「カメラ・ワーク」が休刊した1917年までを時代の幅として展示構成した。この展示により、アメリカにおける写真の発明と展開の歴史をオリジナル作品からひもといた。



ヴィジョンズ オブ アメリカ

第2部 「わが祖国」 1918-1961

Visions of America Part 2 "This Land is Your Land" 1918-1961

期 間 平成20年8月30日(土)～10月19日(日)
44日間

主 催 東京都 東京都写真美術館

後 援 アメリカ大使館

協 賛 凸版印刷株式会社

協 力 フォト・ギャラリー・インターナショナル/
株式会社新潮社

出品作品数 162点

第一次世界大戦の終結した年からケネディ大統領就任の年まで、資本主義社会のなかで中心的地位に躍進し、経済・文化・ライフスタイルを世界中に広めていったアメリカ。その成長著しい時代を、写真表現の変遷とともに紹介した。

ヨーロッパからの影響を超えて独自の新しいヴィジョンを確立していく様と、社会問題との関わりによって写真が重要な役割を担うことになったこの時代を、アメリカを舞台に活躍し、写真史に布石を残した写真家たちの作品によって浮き彫りにした。

ヴィジョンズ オブ アメリカ

第3部 「アメリカン・メガミックス」 1957-1987

Visions of America Part 3 "AMERICAN MEGAMIX" 1957-1987

期 間 平成20年10月25日(土)～12月7日(日)
38日間

主 催 東京都 東京都写真美術館

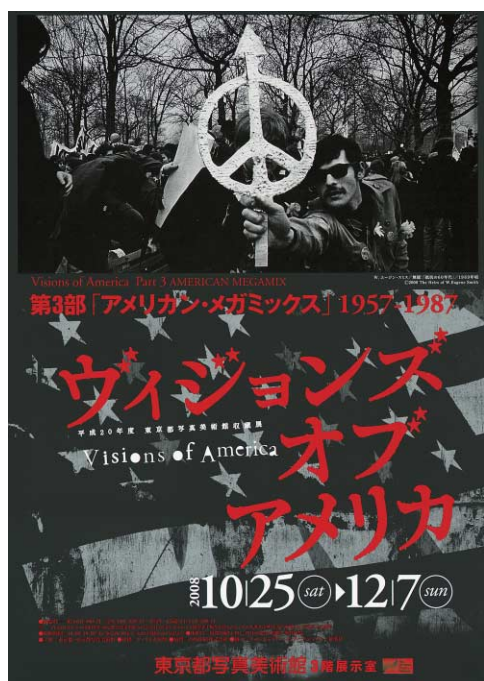
後 援 アメリカ大使館

協 賛 凸版印刷株式会社

協 力 NECディスプレイソリューションズ株式会社/
フォト・ギャラリー・インターナショナル/
株式会社新潮社

出品作品数 190点

本展は20世紀後半のアメリカ文化を写真、美術、文学、音楽のジャンルにまたがって横断的にとらえた。小説家ジャック・ケルアックがビート世代を代表する小説『オン・ザ・ロード』を発表した1957年から美術作家アンディ・ウォーホルが没した1987年まで、このふたつの象徴的な出来事で区切られた30年間を、アメリカがもっとも輝きを放った時代として描き、ポップ・アート、対抗文化、ヴェトナム戦争、ポストモダン文化などの時代背景とともに190点の収蔵作品と関連資料によって紹介した。



甦る中山岩太：モダニズムの光と影

NAKAYAMA IWATA : Reconstructing a Master Heritage

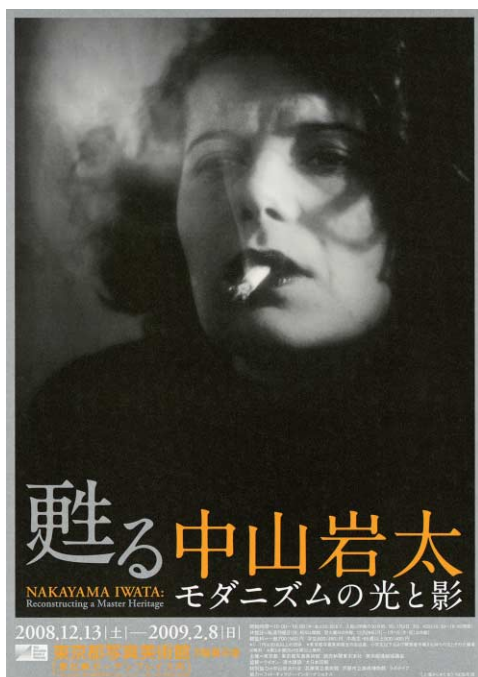
期 間 平成20年12月13日(土)～平成21年2月8日(日)
47日間

主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／
美術館連絡協議会

特別協力 中山岩太の会／兵庫県立美術館／
芦屋市立美術館／ラボ・テイク

出品作品数 128点

日本の近代的写真表現を切り開いた重要な写真家である中山岩太(1895-1949年)の回顧展。1918年に東京美術学校(現・東京藝術大学)臨時写真科第1回生として卒業し渡米した後、パリに渡って現地の芸術家たちと交流を深める。1927年に帰国後、関西の写真表現をリードした「芦屋カメラクラブ」を結成する。また1932年には野島康三らと写真雑誌『光画』を刊行し、モダニズムの感性にあふれた「新興写真」の旗手として、日本の近代的写真表現を切り抜いた。本展では、オリジナルプリントに加えて、残されたガラス乾板をもとに新たに制作されたプリントも展示した。



夜明けまえ

知られざる日本写真開拓史Ⅱ 中部・近畿・中国地方編

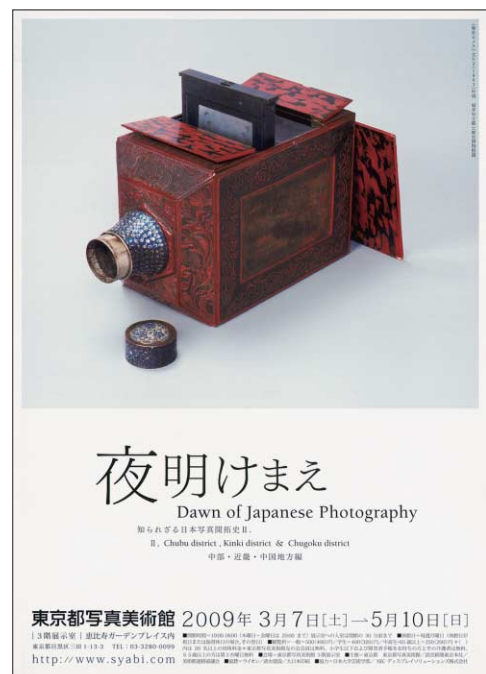
Dawn of Japanese Photography [II.Chubu, Kansai, Chugoku district]

期 間 平成21年3月7日(土)～5月10日(日)
21日間(平成21年3月31日までの開館日数)

主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞東京本社／
美術館連絡協議会

出品作品数 294点

日本全国的美術館、博物館、資料館等の公共機関が所蔵する幕末～明治中期の写真・資料を調査して、体系化する初めてのシリーズ的試み「日本写真開拓史」の第二弾。写された像だけではなく、装丁や記されている文字など「物」として楽しめる初期写真史の逸品とともに、明治期の写真師を描いた錦絵や『商工名鑑』、そして幕末に制作されたカメラなど、写真初期の歴史を直接感じられる立体的かつ交差融合的な作品・資料が一堂に会した。



映像をめぐる冒険vol.1

イマジネーション 視覚と知覚を超える旅

Quest for Vision vol.1 - IMAGINATION: Vision, Perception and Beyond

期 間 平成20年12月20日(土)～平成21年2月15日(日)
47日間

主 催 東京都 東京都写真美術館／産経新聞社

支 援 文化庁若手クリエイター創作支援事業

助 成 財団法人花王芸術・科学財団

協 力 NECディスプレイソリューションズ株式会社／
株式会社キクチ科学研究所

協 賛 凸版印刷株式会社

技術支援 有限会社カワシマ・ラボ

後 援 サンケイスポーツ／タ刊フジ／
フジサンケイビジネスアイ／iza!／
SANKEI EXPRESS

出品作品数 143点

資料の類と、気鋭の現代作家（宇川直宏、狩野志歩、近森基++久納鏡子、牧野貴、渡辺水季）による新作・近作とを有機的に対置した。映像前史から現在に至るまでをたどる約3,000点におよぶ映像コレクションの魅力を再発見・再発信するとともに、未来へと連なる映像表現の歴史的・理論的な文脈を、楽しみながら学ぶ機会として継続させていく。

平成20年度から新たにスタートしたシリーズ企画「映像をめぐる冒険」では、当館映像コレクションの指針となる5つのテーマを毎年ひとつずつ再考し、映像前史のさまざまな試みや工夫から最新の技術や動向を反映した現代の表現までを、収蔵作品を中心に新たな視点から紹介する。

シリーズ第1回となる「イマジネーション 視覚と知覚を超える旅」では、「視覚をめぐるメディアの冒険」、「知覚の補助装置」、「視覚と知覚を超えて」という3部構成で、歴史的な視覚装置や

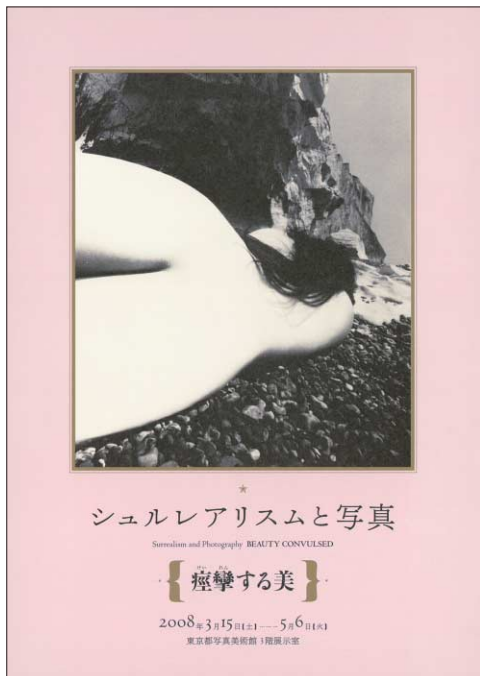


展覧会事業
自主企画展

シュルレアリスムと写真 痙攣する美
Surrealism and Photography BEAUTY CONVULSED

期 間 平成20年3月15日(土)～平成20年5月6日(火)
32日間(平成20年4月1日以降の開館日数)
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
助 成 読売新聞社／美術館連絡協議会
協 力 フォト・ギャラリー・インターナショナル／
ツァイト・フォト・サロン
出品作品数 292点(書籍等含む)

1924年の活動開幕宣言以降、アンドレ・ブルトンを中心に多彩な表現世界を繰り広げた20世紀最大の芸術運動シュルレアリスム。それは、発祥地パリはもとより世界的な展開をみせ、純粋な視覚表現から広告、ファッションに至るまで人々の意識に深い影響を及ぼした。本展では、写真とシュルレアリスムの関係に注目しながら、前世紀における美術表現に革命をもたらしたユニークな視覚世界を紹介するとともに、この壮大な芸術潮流に新たな光を当てつつ、その多面的な活動の軌跡を展覧した。



森山大道展 II.ハワイ
MORIYAMA DAIDO II.HAWAII

期 間 平成20年5月13日(火)～6月29日(日)
42日間
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／
産経新聞社
特別協賛 カルティエ
協 賛 エプソン
協 力 タカ・イシイギャラリー
後 援 サンケイスポーツ／タ刊フジ／
フジサンケイビジネスアイ／iza!／
SANKEI EXPRESS
出品作品数 69点

森山大道の最新作「ハワイ」を取り上げ紹介した。2004年から足かけ3年の歳月を費やし、ハワイ島、オアフ島を舞台に、神秘的な自然と人々の日常をモノクロームで捉えた森山大道独自のハワイ。本展は写真集『ハワイ』に掲載された300点から森山大道自らが厳選した作品67点に、エプソンの協力により作成された幅6メートル、高さ4メートルの特大サイズのプリント2点を加え構成した。また、ハワイでの撮影の様子を記録した映像を上映した。



今森光彦写真展 昆虫4億年の旅

IMAMORI Mitsuhiro Exhibition

Insects: On the move for 400 million years

期 間 平成20年7月5日(土)～8月17日(日)
39日間

巡 回 静岡アートギャラリー(平成21年7月4日(土)～8月30日(日))

主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社

後 援 株式会社NHKエンタープライズ

協 賛 積水ハウス株式会社／PENTAX／エプソン販売株式会社／富士フイルムイメージング株式会社

協 力 株式会社新潮社／株式会社クレヴィス／株式会社写真弘社／有限会社イマジジン・アートプランニング

出品作品数 189点

世界の熱帯雨林や砂漠から国内の身近な自然環境まで、自然と人の密接な関わりを、美しい映像と親しみやすい文章で伝えつづける今森光彦の個展。彼の代表作である「世界昆虫記」「昆虫記」から新作まで、昆虫の生態を中心に189点を紹介した。昆虫に注がれる今森のまなざしは、彼らを包みこむ自然、さらには人間の営みにも向けられ、自然と人間との関係をも浮かび上がらせた。同名の写真集『今森光彦 昆虫4億年の旅』(新潮社)及び展覧会により第28回土門拳賞を受賞した。



液晶絵画 STILL/MOTION

STILL/MOTION : Liquid Crystal Painting

期 間 平成20年8月23日(土)～10月13日(月・祝)
45日間

主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社

特別協力 シャープ株式会社

協 力 ポーズ株式会社／エプソン販売株式会社

出品作品数 30点

本展は、近年の液晶ディスプレイをはじめとする映像環境の飛躍的な発展を背景に、映像による表現の新たな可能性を切り開きつつある、日本、中国、欧米の作家14名の作品を紹介した。三重県立美術館、国立国際美術館との共同企画による巡回展覧会であった。カフェ・ギャラリートーク1回、講演会1回、アーティスト・ギャラリートーク2回実施し、いずれも好評であった。

<出品作家>イヴ・サスマン、ヤン・フードン、小島千雪、サム・テイラー＝ウッド、ミロスワフ・パウカ、ドミニク・レイマン、ビル・ヴィオラ、森村泰昌、ジュリアン・オピー、チウ・アンション、千住博、ブライアン・イーノ、やなぎみわ、鷹野隆大



日本の新進作家展VOL.7 オン・ユア・ボディ On your body; contemporary Japanese photography

期 間 平成20年10月18日(土)～12月7日(日)
44日間

主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
東京新聞

助 成 財団法人地域創造/
財団法人アサヒビール芸術文化財団

協 賛 株式会社ワコール/凸版印刷株式会社/
富士フイルムイメージング株式会社/
キヤノン株式会社

協 力 アサヒビール株式会社/
フォトグラファーズ・ラボラトリー/
株式会社カラーサイエンスラボ/
フォト・ギャラリー・インターナショナル/
株式会社カシマ

出品作品数 76点

「日本の新進作家」に焦点をあてた展覧会シリーズ第7回目となる今回は、仮想的空間が強まる現代にあって、逆にますます現代人を捉えて放さない「身体」にまつわる問題がテーマ。朝海陽子、澤田知子、塩崎由美子、志賀理江子、高橋ジュンコ、横溝静という国内外で活躍する6名のアーティストたちが参加し、現代写真・映像・美術の最先端を、様々な角度から検証している新進作家たちを、広く一般に紹介し、ジェンダーについて深く考えさせる展覧会となった。



ランドスケープ 柴田敏雄展 LANDSCAPE SHIBATA TOSHIO

期 間 平成20年12月13日(土)～平成21年2月8日(日)
47日間

主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/
読売新聞東京本社/美術館連絡協議会

助 成 芸術文化振興基金

協 賛 ライオン株式会社/清水建設株式会社/
大日本印刷株式会社/株式会社ニコン/
株式会社ニコンイメージングジャパン

協 力 双ギャラリー/ツァイト・フォト・サロン/
フォトグラファーズ・ラボラトリー/
有限会社イマジン・アートプランニング

出品作品数 74点

国際的に活躍する中堅作家個展の第2弾として、柴田敏雄の個展を開催した。本展は国際的な評価が高いにも関わらず、作家にとって初の回顧的な展覧会であった。初期の「夜景」のシリーズから、1992年に木村伊兵衛写真賞を受賞した「日本典型」のシリーズ、近年制作をはじめたカラーのシリーズを展示した。また本展では作家のインタビューを中心とした有料のイヤホンガイドを導入した。(イヤホンガイド企画・制作 アートみょうり) この展覧会等の活動によって、2009年日本写真協会作家賞と第25回東川賞国内作家賞を受賞した。



やなぎみわ マイ・グランドマザーズ Yanagi Miwa My Grandmothers

期 間 平成21年3月7日（土）～5月10日（日）
21日間（平成21年3月31日までの開館日数）
主 催 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／
朝日新聞社
協 賛 株式会社資生堂／凸版印刷株式会社
協 力 一色事務所
出品作品数 27点

第53回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館展示が決定し、国際的な注目が集まる、やなぎみわの個展。

京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、1993年に京都で初個展を開催し、以後、国内外の展覧会に多数参加。「少女地獄 極楽老女」展（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2004年）、「無垢な老女と無慈悲な少女の信じられない物語」展（原美術館、2005年）、ニューヨーク、ヒューストンなどの個展を経て、さらに活発な制作活動を続けている。

本展覧会では、若い女性が思い描く50年後の自分の姿を作り上げた「マイ・グランドマザーズ」を展示。2000年より発表し続けているこのシリーズを最新作と共に一挙公開した。



第1回 恵比寿映像祭 オルタナティブ・ヴィジョンズ 映像体験の新次元 Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions

期	間	平成21年2月20日(金)～3月1日(日) 10日間
主	催	東京都/ 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/ 日本経済新聞社
後	援	株式会社フジテレビジョン
協	力	パイオニア株式会社/ NECディスプレイソリューションズ株式会社/ 株式会社キクチ科学研究所/株式会社タグチ/ 恵比寿ガーデンプレイス株式会社/ぴあ株式会社/ 株式会社シブヤテレビジョン/ 株式会社北山創造研究所/ 株式会社トリプルセブン・インタラクティブ/ 株式会社ロボット/エルメス財団
出品作品数	展示作品:	71点/上映作品: 99本

恵比寿映像祭は、年に一度、10日間にわたり全館を使って、展示、上映、ライブ・イヴェント、トーク・セッションなどを複合的に行うことを通じ、映像分野に於ける創造活動の活性化と優れた映像表現やメディアの発展を過去・現在・未来へ継承すべく、広く対話し、共有する場となることを目指す。
第1回のテーマは「オルタナティブ・ヴィジョンズ 映像体験



の新次元」とし、多様化する映像表現と映像の受け止め方を、日本語の「映像」という言葉の持つ曖昧さを手がかりに、あらためて問い直すべく、各プログラムを企画した。

【展示】会場：3階、2階、地下1階展示室ほか

先駆的な作家から、国際的に活躍する実力派、気鋭の若手を含む国内外のアーティスト計14組19名が出品。映像メディアの在り方を問う新旧の作例や、精緻に作りこまれた音響で映像体験の多層性を問うものなど、スクリーンに収まりきらない様々な表現を配した。うち6組7名の作家を招いてアーティスト・トークを行い、来場者との対話の場を持った。試みとして渋谷の街頭ビジョンを用いた作品提示(チャン・ヨンヘ重工業)も行った。

出品作家：アンディ・ウォーホル、ブルース・コナー、クリス・バーデン、ジェネラル・アイディア、宇川直宏、ダラ・バーンバウム&ダン・グレアム、ショーン・スナイダー、古郷卓司、ジャネット・カーディフ&ジョージ・ピュレス・ミラー、ジェス・マクニール、チャン・ヨンヘ重工業、ヨハンナ・ビリング、木村太陽、岡田憲一

【上映】会場：1階ホール

計20本におよぶ多彩なプログラム(73名の作家・監督による計99作品)を上映。あわせて、上映の前後に、作家、プログラマー、関係者ら多数のゲストによるトークを実施し、鑑賞の助けとするとともに、来場者との交流の機会とした。作品選定にあたっては、映像祭スタッフによる独自のプログラム以外に、国内外の団体・組織や専門家との連携プログラムを多数加えて充実を図るとともに、個々の活動や表現領域を紹介することで映像祭を契機とした有機的なネットワーク作りの端緒を開いた。

プログラム：①追悼ブルース・コナー 視覚の残光/②ロバート・フランクの旅路：ドキュメンタリー「Leaving Home, Coming Home」/③ジェネラル・アイディア 未来の再構築 Video Works 1974-1985/④科学映画の愉しみ/⑤妄想の楽園 ブルース・ビクフォード vs 黒坂圭太 日米アニメーションの奇才対決/⑥「映画」と「絵画」の境界線上で/⑦Animated Visions: 石田尚志×辻直之×大山慶/⑧三宅流《究竟の地 岩崎鬼剣舞の一年》ドキュメンタリー/⑨日仏の最新手作り映画傑作選/⑩表現としての自家現像フィルム 能登勝の世界/⑪サンフランシスコ・ベイエリア発 実験映画の饗宴/⑫キャニオン・シネマ発 現代実験映画選 新着編/⑬オーストラリア・アートフィルム史/⑭オーストラリア現代映像の実験室/⑮映画は長さではない! ショートフィルムのポテンシャル/⑯⑰中国社会的現実を見据えて ドキュメンタリー《鉄西区》第1部：工場、第2部：街、第3部：鉄路/⑱追悼・土本典昭 少年は何を殺したのか——テレビ・ドキュメンタリーと作家性/⑲大島渚の戦争 敗者は映像を持たない

【ライブ・イベント】会場：2階ロビー、地下1階展示室
2階エントランスの吹き抜け空間に大型スクリーンを設置して
行ったオープニング・ライブを初めとし、トーク・セッション
やライブ・パフォーマンス、プレゼンテーションなどのイベ
ントを計5回開催。映像を、「体験」するものとして多角的に取
り扱う姿勢を明示した。

出演：d.v.d. (itoken、jimanica、山口崇司) / 松本俊夫、宇川直宏 /
ディレク・デ・ビュルイン、ジョエル・スターン、アンソニー・グウエ
ラ、クリスティーナ・テスター / 中原昌也、梅田哲也、Optrum (伊東
篤宏、進揚一郎) / 飯名尚人、マックス・シューマツハ、棚橋洋子

【公式ウェブ・サイト】<http://www.yebizo.com>
実施内容の告知ツールとしてだけでなく、恵比寿映像祭独自の
発信媒体としても機能すべく構想。多様化する映像状況をい
かにとらえていくかという主題を体現するプロジェクトをトッ
プページにて実施したほか、通年での発信を目的としたYebizo
フォーラムの立ち上げや、継続的な運用を見越したアーカイヴ
機能の付加など、ネットワーク時代に即したメディアの活用を
試みた。なお、本ウェブ・サイトはアメリカのWebby Award
に入賞した。

※本事業は、東京文化発信プロジェクトの一環として開催した。

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトとは、東京ならではの芸術文化の創造・
発信、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東
京都歴史文化財団が芸術文化団体等と協力して実施するもので、
演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野で文化イベントを展開
していきます。

東京は、世界に通用する日本の伝統文化である浮世絵や歌舞伎など
をはぐくみ、今も身近に実体験できる都市です。また近年では、
様々なアーティストたちによる文化芸術の創造拠点になっているほ
か、アニメーションに代表されるポップカルチャーを次々と世界へ
送り出しています。

東京が2016年のオリンピック・パラリンピック開催の立候補都市
に承認された今、あらためて「文化芸術創造都市」であることを、
創造活動とその成果の発信を通じて、国内だけでなく世界に強くア
ピールしていきます。ぜひ東京文化発信プロジェクトに参加し、
東京文化を体験・創造してみませんか。

展覧会事業
誘致展

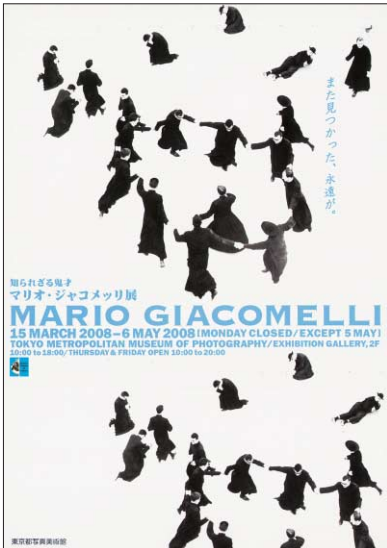
知られざる鬼才
マリオ・ジャコメリ展
Mario Giacomelli

期 間 平成20年3月15日(土)～5月6日(火・祝)
32日間(平成20年4月1日以降の閉館日数)

主 催 朝日新聞社/
株式会社カンパセーションアンドカンパニー/
株式会社ニューアートディフィュージョン

共 催 東京都写真美術館
後 援 イタリア文化会館
協 力 エキサイト株式会社/
株式会社大伸社

1950年代から2000年に生涯を閉じるまで、写真を撮り続けたイタリアの写真家マリオ・ジャコメリの日本初個展。「ホスピス」「スカンノ」「若き司祭たち」「風景」などの代表シリーズに加え、最晩年に手がけていた作品を展示。アマチュアの姿勢を貫いた作家の生まれ育った土地や一地方に腰を据えてじっくりと作り出された作品は、生と死をテーマにした詩情溢れるものであり、近年再評価されている。



紫禁城写真展
SECRETS UNVEILED IMAGES
FROM THE FORBIDDEN CITY

期 間 平成20年3月29日(土)～5月18日(日)
42日間(平成20年4月1日以降の閉館日数)

主 催 朝日新聞社
共 催 東京都写真美術館
特別協力 東京国立博物館/故宫博物院

宇宙の中心とまでいわれ、500年に渡って栄華を極めた中国「紫禁城」。1911年までは明・清24代にわたる皇帝の住居であり、政治の舞台として世界最大の皇宮であったが、当時は一般の人々が立ち入ることは許されていなかった。秘密のヴェールに包まれていたその姿を1900年に撮影したのは、千円札に描かれた夏目漱石の写真でも知られる日本人写真家の小川一真。太和門、中和殿、乾清宮など、プラチナを使った美しく貴重なヴィンテージプリントが織り成す小川の写真を、人気中国人現代作家、侯元超が撮影した現在の故宮の写真とともに展示した。



第33回写真公募展
日本写真家協会展
JAPAN PROFESSIONAL PHOTOGRAPHERS

期 間 平成20年5月24日(土)～6月8日(日) 14日間

主 催 日本写真家協会
共 催 東京都写真美術館

1974年に写真文化の振興を目的に、写真愛好家を対象として始まったフォトコンテストの受賞・入選作品展で、今回で33回をむかえる。文部科学大臣賞に地蔵ゆかり「光のなかの家族」、金賞に伊藤吾郎「円頓寺・初春」、銀賞に吉田智恵子「無垢な瞳」、鍵本裕次「ステップ」、銅賞に三澤史明「樹のない住まい」、山中健次「象」、藤田修一「暑い銀座」がそれぞれ受賞した。



世界報道写真展2008 WORLD PRESS PHOTO 2008

期 間 平成20年6月14日(土)～8月10日(日) 51日間
主 催 世界報道写真財団/朝日新聞社
共 催 東京都写真美術館
後 援 オランダ王国大使館/
 社団法人日本写真協会/
 社団法人日本写真家協会
協 賛 キヤノン株式会社/
 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/
 ティエヌティエクスプレス株式会社
協 力 グーグル株式会社

第51回世界報道写真コンテストは、125カ国から5,019人の報道写真家の応募があり、80,536点もの作品が集まった。大賞にはイギリス人報道写真家ティム・ヘザリントンの「戦場近くの壕で休息をとる米軍兵」が選ばれた。本展では、「スポットニュース」「ニュースの中の人びと」など10の部門から選ばれた59名の作品180点を展示。関連イベントとして、最前線で活躍する若手国際カメラマンによるトークセッション(出演：高木忠智、会田法行、千葉康由)やワークショップが行われた。



第19回日本写真作家協会展 第6回日本写真作家協会公募展 Japan Photographers Association's Exhibition

期 間 平成20年10月18日(土)～11月3日(月・祝) 15日間
主 催 日本写真作家協会
協 力 東京都写真美術館

日本写真作家協会の会員が出品する作品と、公募展の入賞・入選作品の二つの作品展を展示。本年度は会員による作品190点と、全国からの応募作品2,189点の中から入賞・入選した164点を加え、全354点を展示。大阪・広島にも巡回した。



写真新世紀 東京展2008 新しい写真表現に挑戦するコンテストの受賞作品展 New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2008

期 間 平成20年11月8日(土)～11月30日(日) 20日間
主 催 キヤノン株式会社
共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展では過去最高となる応募人数1,517人のなかから選ばれた優秀賞受賞者6名、佳作受賞者28組30名の受賞作品を展示した。また同時に前年度準グランプリに選ばれた黒澤めぐみ、詫間のり子、中島大輔による新作作品展を開催した。関連イベントとして11月28日(金)には1階ホールにて「公開審査会」(審査員：荒木経惟、飯沢耕太郎、南條史生、榎本了亮、大森克己、野口里佳)および「ゲスト審査員によるトークショー」(出演：大森克己、野口里佳/司会：山内宏泰)を開催した。



第9回九州産業大学フォトコンテスト受賞作品
上野彦馬賞写真展
 UENO HIKOMA AWARD Exhibition

期 間 平成20年12月6日(土)～12月14日(日) 8日間
主 催 毎日新聞社/九州産業大学
後 援 東京都写真美術館

わが国の<写真の祖>とも言われる上野彦馬の名を冠したこのコンテストは、明日の写真界へのデビューを夢見る若い写真家の発掘と育成を目的として創設された。プロ・アマを問わず、39歳以下の一般部門と高校生・中学生部門を併設しているのが特徴。第9回目を迎えた今回は総計3,428点の作品が国外を含め全国から集った。本展では、大賞をはじめとする入選作品102点を展示。また、企画展として日本カメラ博物館所蔵の幕末明治の古写真「上野彦馬が愛した長崎」56点を展示した。

APAアワード2009
 第37回社団法人日本広告写真家協会公募展
 APA Award 2009

期 間 平成21年3月7日(土)～3月22日(日) 14日間
主 催 社団法人日本広告写真家協会
後 援 経済産業省/文化庁
協 賛 ニコンイメージングジャパン株式会社/
 キヤノンマーケティングジャパン株式会社/
 富士フイルム株式会社/
 加賀ハイテック株式会社 コダック事業部/
 エプソン販売株式会社/
 株式会社電通/
 トヨタ自動車株式会社/
 株式会社博報堂/
 オリンパスイメージング株式会社/
 株式会社フレームマン/
 株式会社堀内カラー/
 株式会社玄光社/
 株式会社日本航空/
 凸版印刷株式会社/PIEBOOKS
協 力 法人賛助会員各社

社団法人広告写真家協会が公募した「APAアワード2009」の入選作品を一同に展示した。広告写真部門は2007年1月1日から2008年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品、公募写真部門では「活(かつ)」というテーマで応募された、プロ・アマチュアを問わない写真家の新たな表現へ挑戦した作品を選出した。

